

国際アートフェア「Artexpo New York 2012」

- ・主催 : Redwood Media Group
- ・参加数 : 250 画廊
- ・参加国数 : 20 ヶ国

3月19日夕方、ニューヨークに到着。この時期のニューヨークとは思えないほど暖かい気候で、街には半袖のTシャツの方やタンクトップの女性など多くの人々で賑わっており、街に活気がありました。

3月20日、いつもお世話になっている運送業者さんの倉庫へ、展示用備品の準備をするために訪問。作業を終えてその足で会場のピア92へ下見。

3月21日午前、搬入・展示。今回現地でお手伝いをお願いしたNY在住の日本人女性と共に会場へ。ブースを再度確認すると壁に汚れがありペイントをお願いすることに。壁のペンキは乾くまで作業が出来ず、遅れをとりながらも展示をしていると、展示中にも関わらず数名の関係者が、いくつかの作品の価格を問い合わせてきました。感触と手応えを感じながら時間ギリギリで展示を終えました。今回、壁が汚れていたり、ライトが思う通りに設置されていないブースが多数あり、主催者の管理オフィスはクレームのために並ぶ出展者で長蛇の列が出来ていました。幸い弊社のブースは、近くで作業していたスタッフをつかまえて、直接依頼をしたため壁のペイントもライトの設置の問題も早い段階で解消されました。

3月22日、初日はトレードオンリーということでゆったりとはじまり、出展画廊関係者や、作家、業者が、内覧を兼ねて会場を廻っていました。昼過ぎに、2010年から弊社作品を購入下さり、一度日本に作品の買い付けのためだけに来日したことがあるアートディーラーでコレクターのU氏がブースを訪れ、挨拶や近況等をお話し、いつもコレクションしてくれている作家の新作を紹介しました。その作品については「今日、持って帰るのには大きすぎる」ということで、予備の小品をお見せしたところじっと作品と向き合いはじめ交渉の末、1点購入して下さいました。彼は「今年の10月に東京へ行きます！画廊へ行きますから！」と嬉しそうにお話下さいました。今回購入した作品は彼が持っていたバッグにぴったりと収まるサイズで上機嫌で会場をあとにされました。

3月23日からは一般の方も入場しはじめ、少しずつお客さんが増えてきました。価格の問い合わせや、作品への問い合わせが多数あり作家資料等を求められ対応に追われる時間帯が続きました。皆さん、好感触ながら「会場を廻って考える」といってはブースをあとにしてゆきました。なかなか決定迄至らないもどかしさを感じながら少し会場の様子を見てまわることにしました。原画作品を扱う画廊たちは作品販売が好調なところが少なく、「調子はどうですか？」と聞くと、皆一様に首を横に振りながらも「今年は一日会期が多いから、ラスト二日間に望み

をかけるよ」という返事が。一方では会場の中央に巨大なブースを構え、工房作家を何人も雇ってジクレエ作品を製造している大手の業者たちのブースには、連日多くのお客様が入り、作品も一型の作品に対して複数点数（多いものは一型で10点前後）売れていました。

最終日、気持ちを切り替えて、朝から価格も少し変更しながらお客様とお話をしていると、若いカップルがある作家の作品に興味をもち、作品や価格について聞いてきました。色々としばらく二人で相談をしながらも購入を決定。とっっても幸せそうに二人で作品を持ち帰る姿を見て、きっと大事にしてくれるだろうと確信し、嬉しい気持ちでした。その後も、問い合わせは最後まで続きました。今回、販売自体は少なかったものの、過去の Artexpo New York への参加がきっかけで、ある作家に「個展を開催しないか」というオファーがニューヨークの画廊からあり、2013年の冬にニューヨークでの個展を開催予定で現在諸々のやり取りをしています。

今会期中、現地の画廊や、作家、米国在住の方とアメリカのアート、ニューヨークの画廊、ニューヨークのアートシーン等についてお話させて頂き色々学ぶことが多く大変参考になりました。今年はロシア系のお客様が増えて会場でも目立ちましたが、現地の方のお話ではニューヨークでここ最近、ロシア系の富裕層が目立ってきて、いたるところでそうした方々の購買層が増えているそうです。ニューヨークのアートシーンはスピード感があり、社会情勢を反映しながら速やかに変化してゆきます。ヨーロッパからの進出アートフェアもどんどん増え、今迄ニューヨークのアートフェアの代表格であった Armory Show でさえもその変化の中にあるということを知りました。様々な選択肢がどんどん増える中、画廊もアーティストも、各々が理想と現実の認識、明確なヴィジョンを持って進んでゆくことが重要だと感じました。